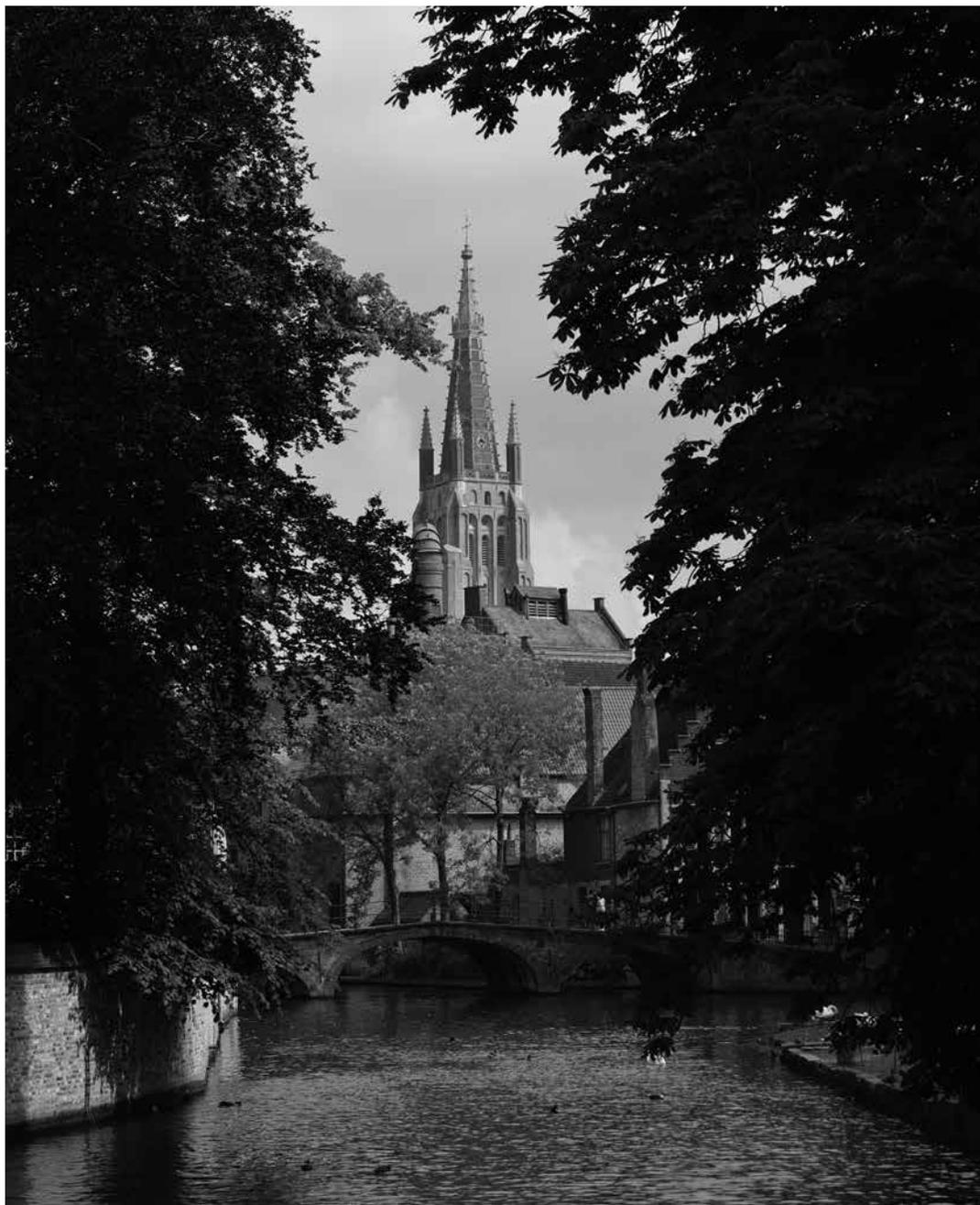


一般社団法人
日本新聞製作技術懇話会
会報 (隔月刊)
VOL.49 No.2
2025.4.1
(通巻 288 号)
禁転載

CONPT

Conference for Newspaper
Production Technique-Japan

広報委員会編集
編集人 井上 努
東京都千代田区内幸町
日本プレスセンタービル
8階 (〒100-0011)
電話 (03) 3503-3829
FAX (03) 3503-3828
<http://www.conpt.jp>



目次

JANPS in page2025を終えて	日本新聞製作技術懇話会企画委員長	福島知美子	3
JANPS in page2025見学記	時事通信社 システム開発局総務	森本 佳輝	5
第40回新聞製作人新年合同名刺交換会			6
楽事万才	清水製作 営業部	増田 浩太	7
芝 則之氏を偲んで	日本新聞製作技術懇話会会長	清水 英則	8
	会友(元マネージャー)	酒井 寛	9
新聞メディアの潮流 欧州報告(14)	在英ジャーナリスト	小林 恭子	10
美味あっちこっち	北海道新聞社 執行役員制作局長	村上 孝志	13
わが職場あれこれ	デイリースポーツ 営業ユニット	猪股 弓人	14
会員消息			14
CONPT日誌			14

●表紙写真提供：CONPT TOUR2024 入選作より 西研グラフィックス 向江 一人氏「ザ・ヨーロッパ」

●表紙製版：(株)デイリースポーツ

●組版・印刷：(株)デイリースポーツ

新しい試み JANPS in page2025を振り返って

「JANPS in page2025」は日本新聞協会と日本新聞製作技術懇話会(CONPT)の共催により、2月19日(水)～21日(金)の3日間、東京・池袋のサンシャインシティ文化会館で開かれた。前回のJANPS2018(東京ビ

ッグサイト)から6年ぶりの開催で、18社が出展した。page展全体の来場者は3日間で24,580人となり、前年より3,000人増えた。このうち「JANPSが目的」とする来場者は18%を越えた。

充実した対話と活気

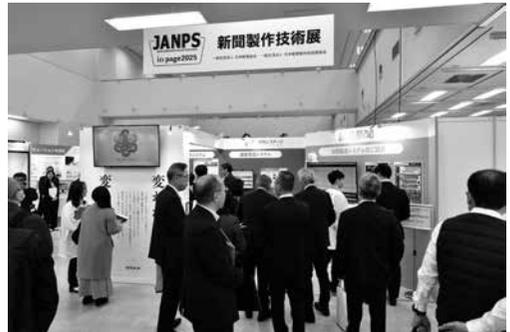
日本新聞製作技術懇話会
企画委員長 福島 知美子

JANPS in page2025は、リアル展示会としてはJANPS2018から6年を経過しての開催となった。この間、原材料価格や物流費の高騰に加え、物価や人件費の上昇が重なり、新聞業界を取り巻く状況は依然として厳しいものだった。

そのような中、出展意欲を促す好材料が少ないにもかかわらず、社内調整に尽力して出展してくださった18社(新聞社関係3社、会員社10社、非会員社4社、懇話会)には、心より感謝申し上げる。



今回テーマとして掲げた「新しい時代に向けたDX 製作技術から総合技術へ」のもと、出展各社は要望の高かった「見本市」「リアル展示会」を実現させるために工夫を凝らし、自社の最新技術や最新サービスを披露する場



として、本展示会を活用していただいた。その熱意が6年ぶりの開催にふさわしい活気と、充実した対話の場を生み出す原動力になったと感じている。結果として新聞を中心とした既存メディアの存在感、価値についても改めて注目されたと感じた。

過去のJANPSとは場所も雰囲気も異なり、皆さんの期待に沿える展示会になるのか不安もあった。しかし、いざ開催してみると初日から多くの来場者で賑わい、関係者一同、安



堵(あんど)の思いでいっぱいになった。

特に今回は、久しぶりに来場者の生の声を直接聞ける貴重な場となっただけでなく、他部署などへ異動された方々にも来場いただき、懐かしい思い出話に花を咲かせる場面にも立ち会うことができ、感慨深い展示会となった。

初日の開会式テープカットには、日本印刷技術協会の網野勝彦会長等とともに、日本新聞協会技術委員会 伊藤彰芳委員長、日本新聞製作技術懇話会 清水英則会長にも出席し



☆…CONPTも出展

JANPS in page2025にはCONPTも出展した。CONPT50年の歴史や活動、2024年度の新新聞技術賞などを紹介するパネルを掲示。入場者の懇談の場として、ソファコーナーを設置した。
(事務局)

ていただいた。

また、pageとして初の試みとなる飲食&販売企画には、自社でクラフトビールを製造・販売する西研グラフィックスにご賛同いただき、オリジナルビールの販売や試飲を行っていただいた。時間帯によっては行列ができるほどの盛況ぶりで、展示会に大きな活気をもたらした。

さらに、各社のニーズに応じたサービスを提供しているAWS社には2日間にわたりセミナーを開催していただき、両日とも定員を超える人が集まり、展示会全体の来場者数の押し上げにも大きく貢献していただいた。2社にはこの場を借りて心より感謝申し上げます。

<page展 全体の来場者>

▽1日目 6,645人	前回 5,426人
▽2日目 7,920人	前回 7,106人
▽3日目 10,015人	前回 9,048人
計 24,580人	前回 21,580人

今回の来場者は、page展全体で24,580人となり、前回のpage2024に比べ 3,000人(約14%)増えたとの報告があった。最も注目すべきは「JANPS目的」で来場した方々が全体の18.1%になったということだ。これは、来場者の2割近くを占める数字となり、新聞業界への注目の高まり、期待の表れだと思った。

現在、来場者・出展社アンケートは採取中となりますが、出展して良かった、来場して良かったとの声を多く聞いている。

次回の展示会については関係者皆様の意見を尊重するとともに、新聞業界にとってさらに魅力ある展示会になるよう日本新聞協会とともに企画・検討していきたい。

最後になりますが、今回、初の試みとしてpageへの参加を了承いただき、設営から運営に至るまでご尽力いただいた日本印刷技術協会関係者に感謝申し上げます。page2025の

テーマ「共奏」にふさわしく、新たなビジネスチャンスを共に創出できたのではと思っている。

(本文中の写真は日本印刷技術協会提供)

開催頻度など検討したい

時事通信社
システム開発局総務 森本 佳輝

今回のJANPSはpage内での初開催となり、エリアスペース、出展社ともこれまでより少なくなったが、会場は明るくコンパクトになり、見学者も多く賑わっていた。ただ、JANPSの象徴であった輪転機などの大型提示物がなく、インパクトは少し欠けた感があった。

上流工程では、統合編集、CMSのほか、AIを利用した見出しや要約の自動生成、画像識別、コンテンツのファクトチェックなどが展示され各所盛況であった。統合編集では既存ベンダーのほか韓国ベンダーの初展示もあり、更新を検討している社には参考になったのではと思うが、2024年度新聞技術賞を受賞した朝日新聞社と北海道新聞社が開発した統合編集システムの展示がなかったのは少し残念であった。



AIを利用した見出しや要約の自動生成、画像識別は以前に比べ速度と精度が上がってきたようだ。特に顔認識などでは90数%の識別率には驚かされた。また、複数の大規模言語モデル(LLM)が利用できるローコードブ



ラットフォーム、アプリケーションの性能や状況を監視するツールなどの出展も見られた。

新聞社関係では、読売新聞社と読売システックが共同出展して、前者が輸送過程を可視化する「新聞輸送システム」と購読者情報を一元化する「YCクラウド」、後者が「画像受信システム」と「定点カメラシステム」をそれぞれ紹介した。

朝日プリンテックは自社開発による新聞用・商業用「ローラー再生装置」および「新聞用ブランケット復活装置」をわかりやすい動画にまとめて紹介した。

中日新聞社は囲碁・将棋の譜面制作アプリ「UROBIN (ウロビン)」をHOUSEIのブースに展示、余剰部品の売買仲介サービス「シン・マッチ」をシステムックのブースで紹介した。

セミナーは時間の都合がつかず受講できなかったが、受講者に聞いたところ盛況だったようだ。ただ、セミナー終了後に退場者が通路に溢れ、展示会場に戻ることが困難だったとの感想も聞かれた。

「page2025」全体の来場者数は3日間合計で24,580人、前年より3,000人増加したとのことで、JANPSによる増員効果もあったと思われる。

次回JANPSには、ブラッシュアップされた統合編集やAI ツールのほか、新たな技術の紹介、展示を期待する。また、開催方法や開催頻度(これまでは3年ごと)などについて、CONPTと新聞協会でも検討していく必要があ

りそうだ。

*

下流工程について、印刷部会部会長の日経新聞社・製作本部グループ長の唐澤幸伸氏にコメントをいただいたので紹介する(多謝。前述と重複する部分は省略)。

各新聞社の工場関係者も数多く来場し、賑わいを見せた。展示内容は、富士フィルムグラフィックソリューションズが、無処理刷版の版エッジへのインキ付着を軽減する新技術の紹介と刷版技術の開発遍歴をパネル展示した。フジオー産業は、輪転機の転売・解体撤去、輸入インキ販売、印刷現場における産廃収集運搬業務と再生事業について紹介した。西研グラフィックスは、端折れ紙面をAI搭

載カメラで検知するシステムの展示のほか、自社オリジナルのクラフトビール4種類を販売し、会場の盛り上がりにも一役買っていた。

これまでより出展ブースは減少したが、現場の省力化や業務効率化につながる技術や仕組みの提案が見られた。また、デジタル技術やAIを活用した新たなシステムも登場し、これからの新聞製作現場がどう進化していくのか、その方向性を探る良い機会となった。メーカー・新聞社それぞれの課題意識を共有しながら、業界全体で持続可能な製作体制を築いていくためのヒントが得られる展示会となった。

(日本新聞協会 情報技術部会長)

40回新聞製作人新年合同名刺交換会

日本新聞協会と日本新聞製作技術懇話会(CONPT)が共催する新聞製作人新年合同名刺交換会が1月10日午後、日本プレスセンター10階大ホールで開催された。新聞社関係61社99人、会員社関係32社138人が参加し、新聞協会、CONPTの事務局を加えた240人が一堂に会した。

伊藤彰芳新聞協会技術委員長(産経新聞)は多くの参加者を前に次のように述べた。「三菱重工機械システムの新聞輪転機事業撤退については、三菱さんとの対話を重ね、真摯(しんし)に対応いただいている。JANPSに替わるイベントとして、『JANPS in page2025』を、2月にpage2025の中で開催する。新聞関係以外の展示もあるため、個人的には、面白い内容になるのではないかと期待している。見て、聞いて、触れる体験を持ち帰ることは、必ず将来の役に立つと確信している」。

続いて清水英則CONPT会長(写真)は挨拶



の中で、「JANPS2024の代替イベントとして実施した『製作技術研修会』では、若い世代の参加者から今後の業界を担う大きなエネルギーを感じ取ることができた。次に、上流系の見本市的展示会を希望するニーズに応える取り組みとして、来月『JANPS in page2025』を開催する。多くの方にご来場いただきたい」と述べた。さらに、「CONPTは今、大きな転換期であり、同時に正念場を迎えている。この試練を乗り越えていくためには、新聞社の皆さんと引き続き議論を深めていくことが重要だ。今年、CONPTは創立50周年を迎えるが、これまで積み重ねてきた歴史を大切にしつつ、毎年が新たな勝負の年だという気持ちで、努めてまいりたい」と決意を語った。

土井昭人新聞協会技術副委員長(毎日新聞)の発声で乾杯、和やかな雰囲気の中で懇談し、並田正太CONPT副会長の中締めで、会はお開きとなった。

(事務局)

楽事万歳

密かな楽しみ～風呂とビール！～

清水製作 営業部

増田 浩太

私は幼少期より野球漬けの生活を送ってきたこともあり、これといった趣味や楽しみを持っていませんでした。社会人になったら野球は据え置いて新たなチャレンジをしてみようと思っていましたが、結婚して家庭を持ったのが割と早かったこともあり、新たなチャレンジは子育てとなりました。現在、三児の父である私は休日でも子育てサポートに奮闘(?)しており、これはこれでとても充実した幸福な時間ではありますが、ときに想定以上のハードワークとなることもあり、ついついリラックスタイムを求めてしまいます。そんな私にささやかな楽しみをもたらしてくれるのが「スーパー銭湯」です。

*

ご存知の方も多いと思いますがスーパー銭湯は温浴施設の一種で一般的な「銭湯」よりも広いスペースと多様な設備を備えています。

本稿では私の住まいの近くにあるスーパー銭湯【おふろの国】を紹介します。

まずはお風呂から…こちらでは13種類の湯を堪能することができます。今回は私が一番好きな「炭酸風呂」について紹介します。この炭酸風呂は高濃度の炭酸が溶け込んだお風呂となっており気泡が皮膚から吸収されると血流を良くし、疲労回復に期待大です。少しぬるめの温度(37℃程度)のため、時間を忘れて1時間以上入浴していたこともありました。

次はサウナ…「情熱のサウナ」です。こちらのサウナでは一日に数回「ハマ熱波」と呼ばれるイベントがあります。カリカリに焼いた熱波ストーンに特選アロマ液をかけて熱波師がパフォーマンスを行いながらタオルで仰ぎ熱風を送るイベントとなっています。私も何

度も体験しましたが初めてのころは熱風に耐え切れず早々に撤退していました。最近はアロマ液の良い香りがする中で熱波師の汗と必死の形相を面白おかしく見ていると、気付いた時には自分自身も汗だくになっています。やはりサウナで大量の汗をかくと気分も爽快になります！！この瞬間、子育ては忘れかけております(奥様ごめんなさい…)



最後は食事です。「サウナ食堂」という館内に併設された食堂があり定食、麺類、そしてお酒とおつまみの提供もあります。風呂上り

りで体の熱を冷ますためにはやはりキンキンに冷えたビール!!!。カウンター席から見える川の流れをながめながらビールを流し込む瞬間が最高です!この瞬間、子育ては完全に忘れております(奥様ごめんなさい…Part II)。食堂で提供される食事は平日のランチや家族向けのディナーとして利用される方も多いようです。私も妻への労い(罪滅ぼしか??)も兼ねて食事だけを目的に家族と訪ねることもあります。

もう少し子供が成長したら一緒にお風呂にも連れていきたいとも思うが、幼い子供を連れて行った瞬間に「癒し」が「チャレンジ」に変わってしまうのでそっと胸にしまっておきたいと思います。

スーパー銭湯自体は私が幼少期の頃から身近にあったので今更感否めませんが、現在の私には最適な癒しの空間です。妻に内緒で一人ゆっくりと湯につかる時間がとても大切な時間となり私の癒しとなりました。

是非、皆様も癒しの空間を探してみてください。



芝 則之氏 死去

日本新聞製作技術懇話会の第3代会長、芝則之氏が2024年12月22日、病気のため死去した。92歳だった。葬儀は近親者で済ませた。喪主は妻孝子(たかこ)さん。

芝氏は東京機械製作所副社長であった03年5月、日本新聞製作技術懇話会定時総会で会長に選任され、15年まで12年間にわたり懇話会の活動を主導、続いて17年まで名誉会長を務めた。

04年から11年まで、日本新聞教育文化財団(日本新聞協会と合併)の評議員を務めた。

芝則之氏の略歴

1932年(昭和7年)東京都出身。55年、早稲田大学理工学部卒業、明電舎に入社。66年東京機械製作所入社、76年取締役、95年代表取締役副社長、98年東機サービス代表取締役、2001年KKS代表取締役、04年東京機械製作所代表取締役社長、12年退任、相談役。

芝 則之氏を偲んで

CONPTを思う心

日本新聞製作技術懇話会
会長 清水 英則

日本新聞製作技術懇話会(CONPT)第3代会長として、2003年から12年間にわたり私たちの進むべき道筋を示して下さった芝則之氏の訃報に接し、心から哀悼の意を表しますとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

*

芝氏は技術者であることの誇りを胸に、人生を歩まれた方であったと拝察しております。1955年に早稲田大学理工学部を卒業、明電舎を経て66年に父君が経営されていた東京機械製作所に入社されました。

芝氏が発案してまとめた「EWE30文集-早稲田大学電気工学科」という同窓生の文集があります。CONPT事務局に寄贈されています。その中で、氏は「人生での選択肢」と題して、東京機械入社を経緯を語っています。それは、「…新聞製作機器の自動化省力化の要求が強くなり電気・電子関係の技術者が必要になり始めた時」でした。そして「父の誘いに負けた」と。

私は、この「負けた」という言葉の内に、技

術者としての情熱と決意、挑戦の気概が隠されていたのではないかと、感じています。

新聞製作技術展(JANPS)が初めて開催された1970年代からの新聞の成長期をふり返りますと、発行部数の急増を支え、あるいは先導するかのよう、輪転機関連ではオフセット化、モアカラー、タワープレスなど新技術が次々に登場。省人省力化の要請もあって、関連周辺機器各社も技術革新をめざして切磋琢磨する日々でした。

こうした時代のただ中で、実機展示華やかなJANPSの舞台を演出するとともに、主役として奮闘された人こそ芝氏であった、と言えるでしょう。

2000年を越えて以降、発行部数はピークを過ぎ、下降傾向を示すようになりました。芝氏がCONPT会長であった時期と重なってきます。芝氏はイベントの挨拶や会報の中で、繰り返し「CONPTの使命」や「技術革新」を強調し、知恵を出し合って前へ進もう、と呼びかけています。厳しい環境は今に続いて、しみじみ胸に響くお言葉です。

会長を退かれた後も、芝氏は機会あるごとに事務局に立ち寄せられたと聞いています。「何か私にできることは？」と問いかけが度々あったそうです。コロナ禍によって、さすがに

足が遠のかれたようですが、ずっとCONPTのことを気にかけていただいていたのだと思うと、頭が下がります。

*

「警咳に接する」という言葉があります。残念なことに、芝氏とはその機会に恵まれませんでした。私のCONPT活動は芝会長の在任時期とほぼすれ違いで、親しくお話しするというより、むしろ展示会や会合などで、遠く

から仰ぎ見る存在でした。

しかし——。これまで述べましたように、芝氏は新聞業界の成長期から転換期にいたるまで、長期にわたりまさに中心として活躍された方です。その経験談や技術論、そのほか他愛のないことのあれこれ、膝を交えて、じっくりお話を聞いておきたかった。これが今、私の立場にあって、痛切に感じていることであります。

忘れられない「身の丈」発言

日本新聞製作技術懇話会 会友
元マネージャー 酒井 寛

芝則之氏との出会いは、私が日本経済新聞社の技術部で印刷部門を担当していた頃で、半世紀も前のことになります。当時の新聞製作界は、1975年(昭和50年)の「日本新聞製作技術懇話会(CONPT)」の設立に象徴されるように、CTS化(脱鉛)、自動化、高速化などの多くの開発課題を抱え、活気にあふれていました。日本経済新聞社は、東京機械製作所製の新聞輪転機を導入していたこともあり、印刷部門の開発課題の多くは、芝氏率いる東京機械の開発部隊の技術力でクリアされてきました。なかでも1977年度技術部門の日本新聞協会賞に輝いた「DIPPS印刷方式の開発実用化」は、東京機械を始め、CONPT加盟の資材メーカーが参加されたプロジェクトチームによって完成をみました。プロジェクト会議での芝氏の物静かな語り口や、東京機械玉川工場における印刷テストでの陣頭指揮の姿が思い起こされます。

*

芝氏がCONPT第3代会長に就任されたのは、創立30周年を2年後に控えた2003年(平成15年)で、私もこの年から7年間CONPTのマネージャーを務めました。

思い出すのは2005年開催の新聞製作技術展(JANPS)のこと。芝会長が就任して初めて

企画段階から指揮をとられ、大盛況のうちに閉幕しました。芝氏は「JANPS2005は、歴史に残る展示会といっても過言ではありません。…出展社数、小間数、入場者数、すべてにおいて過去最高となりました」(CONPT



JANPS2005開幕
テープカット

誌2006年1月号年頭挨拶)と書かれています。

しかし、この時期以降の新聞界の経営環境は、若者の新聞離れによる発行部数の頭打ち、部数減、メディアの多様化による広告収入の減少などが相まって、年々その厳しさを増していきました。

CONPTの収支状況も例外ではあり得ません。その改善策として、オフィスのスペースを必要最小限である2分の1に縮小して、家賃を半減させる案を提案することにしました。

芝会長は評議員会で評議員の皆さんに、いつもの物静かな口調で改善策を説明されました。「時には、身の丈に合わせることも必要です」。忘れられません。

芝則之氏の長きにわたったお力添えと、CONPTでお任せした7年間のご指導に心から感謝申し上げ、ご冥福をお祈りいたします。

AIを駆使、デジタル有料購読者を拡大

在英ジャーナリスト

小林 恭子

北欧デンマークの日報「エクストラ・ブラデット (Ekstra Bladet)」がAIテクノロジーを駆使し、無料記事の閲読率を倍増させた上に有料購読者を35%増加させたという。2019年から取り組んできた社内プロジェクトの結果を同紙は昨年末、報告書の形で発表している。その努力の軌跡を紹介してみたい。

【新聞・オンラインサイトに助成金】

日本の九州とほぼ同じ面積を持つデンマーク (人口約598万人) は、世界で最もデジタル化が進んでいる国の一つだ。英ロイタージャーナリズム研究所が毎年発表する「デジタル・ニュースレポート2024」によると、デンマークのメディア市場は公共放送 (DRとTV2) と複数の商業ブランド (新聞・オンラインサイト) の2つの流れで構成されている。後者は政府から助成金を得ているが、その条件は報道の中で政治・社会・文化をカバーするニュースが全体の50%を超え、広報目的を持つメディアであること。新聞界の悩みは日本を含む先進国で共通する読者や広告主の紙離れに加え、紙版媒体の製作費の高騰、インフレ、新聞労組による賃金引き上げ要求などだ。

動画ストーリーミング市場では先の2つの放送局のオンデマンド・サービスとともに米ネットフリックスが人気だ。番組を放送時に視聴するのではなく、オンデマンドで視聴する傾向が加速化し、ソーシャルメディアで最も利用度が高いのはフェイスブック (70%) である。ニュースへのアクセスはソーシャルメデ

◆デンマーク日報「エクストラ・ブラデット」の試み

ィアを含むオンラインを通じてが2024年で81%。約10年前の2013年と同数だ。下落したのはテレビ (85%から62%)、紙の新聞 (49%から16%) である。紙媒体を挙げる人が激減している。

デンマークのメディア消費で目立つのが、利用者の信頼度の高さ (57%、この項目を調査した44カ国の中で第4位) だ。ニュースを有料購読する人の比率は該当する国20か国の平均 (17%) と同じで、筆者が住む英国 (8%) や日本 (9%) よりもはるかに高い。世界的に突出するのが報道の自由度だ。言論の自由の擁護

を目的とする非政府組織「国境なき記者団」が毎年発表する「世界報道自由度ランキング (2024年)」によると、デンマークはノルウェーに次いで第2位となっている (ちなみに日本は70位)。

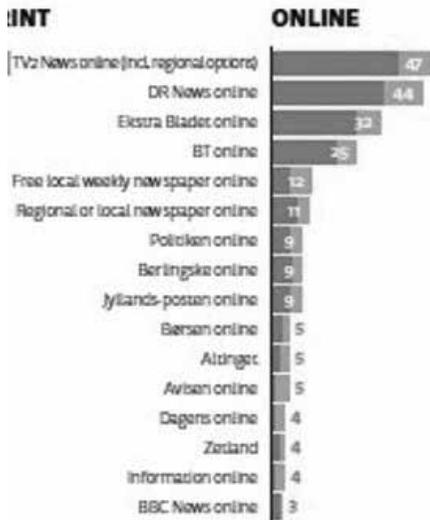
【速報・スクープなどが売り物】

エクストラ・ブラデットは小型タブロイド判の日報で、JP/ポリティケズ社が発行する。1904年、リベラル系高級紙「ポリティケン」の夕刊として誕生し、翌年からは独立した新聞として発行されるようになった。デンマーク語で「Ekstra」は「特別な・追加の」を意味し、「Bladet」は「新聞・雑誌」を指すので、同紙のタイトルは「号外」という意味を持つ。報道の速さ、スクープ、センセーショナルな記事が「売り」である。2016年、筆者は編集室を訪れたことがあるが、当時の編集長 (現編集長は2022年から) が国内で真っ先にニュースを報道していると誇っていたことを覚えている。デジタルニュース・レポートによると、

新聞メディアの潮流

欧州報告

(14)



オンラインニュースでは、エクストラ・ブラデットは第3位（『デジタルニュース・レポート 2024』）

オンラインニュースでは、エクストラ・ブラデットは公共放送TV2、DRに次いで第3位となっており、非常に人気が高い新聞といえよう。

【いち早くAIに着目、実験開始】

AIが今ほどの注目を浴びていなかった2019年末、エクストラ・ブラデットなどを発行するJP/ポリティケنز・メディア・グループはこのテクノロジーを使った実験を開始し、翌年10月、新たに「プラットフォーム・インテリジェンス・イン・ニュース・プロジェクト (PIN)」を立ち上げた。

目的はAIをニュースの編集作業に組み込み、効率性を上げるとともにニュースの閲読体験を向上させること、そして広告や購読収入の増加に結び付けることだ。国内の3つの大学との共同作業で17人のチームを作って開始し、昨年6月まで続けた。プロジェクトの資金はテクノロジー案件に投資する「イノベーション・ファンド・デンマーク」から援助を受けたという。

【プロジェクト3つの柱】

PINは3点を柱として進行した。①ニュースの発行者としての目的やミッションを明確にする、②目的とミッションを実現するためどのようにAIを使うかを定める、③上記の2点が最終的なAI体制に反映されているかを確認する。

エクストラ・ブラデットのウェブサイトでのニュース閲読体験を高めてもらうため、まずレコメンド機能の進化に取り組んだ。娯楽関連のニュースは別だが、日々のニュースは重要性があってもあつという間に読まれなくなる傾向があった。これを解決するため、複数のフィルタリングツールをレコメンド機能に持たせた。「協調フィルタリング」では、ある読者の嗜好に類似した他の読者の情報を用いて自動的に推論を行って記事を出す。これは新着記事に比重が置かれる傾向があった。次に「コンテンツ・ベースド(内容をもとにした)フィルタリング」で記事のメタデータを加えたが、読者を驚かせるような内容の記事がない傾向があった。「ハイブリッド」で上記の2つを組み合わせるフィルタリングを実行した。

ウェブサイトの画面を左右にスワイプできる6つの層に分け、上段の2層分に協調フィルタリングを使って人気が高い、新しい記事を並べ、中段2層には読者の閲読履歴を反映する記事を、後段2層には読者の嗜好と多様性を入れたハイブリッドフィルタリングによる記事を入れた。きめ細かいフィルタリングを通した記事の配置によって、無料記事の閲読が110%、有料購読者が38%増加し、無料閲読者の有料購読者への転換も35%上昇したという。

大量のテキストデータをAIが分析する技術「自然言語処理(NLP)」を使ってニュースの閲読体験をより深める実験にも取り組んだ。NLPによってコンテンツを探し出し、メ



対照フィルタリングを使う学習によって、「同じ人物に関連する記事」(左画像)、「同じイベントに関連する記事」(中央画像)、「同じトピックに関する記事」(右画像)を集めた

(世界ニュース発行者協会のウェブサイトから)

タデータのタグを自動的に作らせ、レコメンド機能を向上させた。また、データ同士を比較する仕組みを用いて膨大なデータをそのまま学習する「対照学習」ツールを使って記事を集め、「人物」「イベント」「トピック」毎に自動的に関連記事を配置させた。

【AIは共同作業のパートナー】

プロジェクトでは289のAIツールが使われ、中でもAIの支援を受けて見出しを作成するとエンゲージメントが激増した。記事内容の検証作業に人間がかかわることで、AIだけに依存した場合のエラーを41%から10%

(参考)

* ロイタージャーナリズム研究所の「デジタル・ニュースレポート2024

<https://reutersinstitute.politics.ox.ac.uk/digital-news-report/2024>

* 同レポートの概要部分翻訳(NHK)

chrome-extension://efaidnbmnnnibpcajpcglclefindmkaj/https://www.nhk.or.jp/bunken/research/oversea/pdf/20240617_1.pdf

* エクストラ・ブラデットのAIプロジェクト記事(世界ニュース発行者協会のウェブサイト)

<https://wan-ifra.org/2025/02/how->

以下に激減させた。AIツールに内在する情報だけではなく過去記事のアーカイブなど外部の情報も判断材料に入れようとした。単純作業はAIに任せるようになったので、ジャーナリストたちが深みのある報道に集中できるようになった。

ジャーナリストたちが特に重宝したのは原稿の見出し作成や要約、そして記事に関連する事実を箱の中にまとめる「ファクトボックス」などをAIが自動的に生成してくれることだった。ジャーナリストにとってAIは自分たちの存在を脅かす存在ではなく、共同作業のパートナー的位置づけをしているという。

【取り組みにあたって大切な事項】

PINプロジェクトの終了後、JP/ポリティケンズ社は複数の推奨事項をあげている。

- ・テクノロジーの発展を継続的にモニターする
- ・ほかの業界が使うAIテクノロジーをそのまま導入しない(ニュース業界独自のニーズがあるため。JP/ポリティケンズ社は同社内で独自に中核となる機械学習の技術を開発)

<denmarks-ekstra-bladet-used-ai-to-boost-subscriptions-by-35/>

* 発行社による、AIプロジェクトの報告書
<chrome-extension://efaidnbmnnnibpcajpcglclefindmkaj/https://jppol.dk/wp-content/uploads/2024/11/pin-industrialreport-2024-final-6.pdf>

* 対照学習(Contrastive Learning)

自己教師付き学習の一つ(機械学習の手法の一つ)で、ラベル付けを行うことなく、データ同士を比較する仕組み用いて、膨大なデータをそのまま学習できる自己教師あり学習の一つ。似たデータは近くに、異なるデータは遠くなるように特徴量を学習する

- ・読者がニュースサイトに何を期待しているかを理解する
- ・編集部員の技術的な知識を高めるための研修を実施する
- ・学んだことをほかのメディアと共有する——など。

自社でAIシステムを自力で構築するほどの人材がないあるいは資金が少ない小規模のメディアの場合は既存のAIツールを購入することになるが、「システム販売社にニュース業界の特徴を理解してもらうこと」が鍵となるという。また、編集、営業・広告、技術部門の職員によって構成されるチームを作り、導入を進めていくよう提案している。

疑問点も生まれた。例えば「AIを使ったレコメンド機能によるニュースの提示を読者はどう感じるのか」「効率性や収入増加に貢献するとしても、長期的にはどんな影響があるのか？果たしてジャーナリズムの質を高めることができるのか」、「巨大テック企業が提供するデジタル生成ツールに依存することによって、報道機関にどんな影響が出るのか」。

いずれも大きく長期的なテーマで、簡単に答えは出そうにないが、経営者も制作側も頭の片隅に置いておくべき点なのかもしれない。

誌上 CONPT-TOUR

スープカレー「CAN CUN」(札幌)

札幌のご当地グルメと言えば、ジンギスカン、ラーメン、スープカレーですが、今回は昨年11月に移転した北海道新聞の本社から徒歩3分ほどにあるスープカレー店「CAN CUN(カンクーン)」をご紹介します。

以前は中心部にあった人気店で、5年ほど前に南2条東6丁目に移転しました。行列店で有名な「GARAKU(ガラク)」にも負けない美味しさですが、少し遠くなったため穴場の店です。

辛さは30段階から選べ、5辛までは無料なので、「チーズハンバーグ」の5辛を試してみました。じっくり煮込まれたハンバーグとゴロゴロ入った野菜も食べ応え抜群です。スープは痺れる辛さと深い旨味が絡み合い、汗をかきながら飲み干しました。ネバネバ系が好きな方には、納豆、オクラ、長芋などが入った「ネバーネバーカレー」も人気だそうです。

店内はカラフルな壁と幾何学模様のタペストリーやガイコツなどの雑貨が並び、インドではなくメキシコ風の店づくりです。夜は色々なテキーラを飲みながらスープカ

美味あつちこつち



チーズハンバーグ



新本社ビル

徒歩3分

北海道新聞社
村上 孝志

レーは勿論、ザンギ(鳥の唐揚げ)などのサイドメニューも楽しめます。

札幌にお越しの際は、ぜひ「CAN CUN」の絶品スープカレーを味わってみてください！

わが職場

組版と競馬チャンネルの二刀流

デイリースポーツ 営業ユニット 猪股 弓人

「わが職場 あれこれ」の原稿、自分が“書く側”になる日が来るとは思わなかった。なぜなら、この会報の組版をしているのが自分だからだ。2008年秋頃から業務を引き継ぎ、16年間で約100号分の制作に携わってきた。

編集作業をしていて特に羨ましいのが「CONPT-TOUR」。毎回ヨーロッパへ1週間ほどの“視察”が組まれている。視察って何の？ どこへ？ ついつい原稿を読んでしまう。そろそろ自分も“行く側”に回りたい。

話は変わって、組版以外の仕事も書いてみたい。宣伝っぽいところもありますが、ご容赦を。皆さんは競馬に興味はあるだろうか？ 馬券を買う方なら、弊社の競馬新聞「馬サプロー」をご存知かもしれない。関東のコンビニやウインズで購入でき、全国のコンビニのマルチコピー機でも出力可能だ。

さて、「馬サプロー」の紙面に「弥永明郎」というトラックマンが登場する。そのYouTubeチャンネル「唯一無二の馬券師 弥永明郎」の編集・運営を私が担当している。たまに競馬場に出かけ、イベントの様子や弥永氏がレースの予想をしている場面を撮影することもある。こうした仕事は初めての経験ではあったが、編集ソフトの使い方などはYouTubeを見て勉強した。

週末は忙しい。その週のレース予想を配信するのだが、この弥永氏、昭和の“強面”な雰囲気とは裏腹に、話が面白く脱線も頻繁、台本通りには動いてくれない。しかし、競馬関係者とも親しいため、なかなか手に入らない情報が飛び出すことも。新聞同様、ぜひチャンネルも一度覗(のぞ)いてほしい。高評価とチャンネル登録もお忘れなく。ちなみに、私の戦果は……特段語ることはない。

会員消息

■担当者変更

* DICグラフィックス(1月1日付)

「新」曾根 賢氏

(オフセットインキ営業本部第一営業グループグループマネジャー)

「旧」石井 靖氏

* パナソニックコネクタ(3月1日付)

「新」村山 隆敏氏

(現場ソリューションカンパニー 新聞ソリューション部システム営業課)

「旧」泉原 正和氏

* 三菱製紙(4月1日付)

「新」国弘 彰氏

(機能商品事業部企画管理部)

「旧」中村 忠夫氏

■所在地変更

* 第一工業(2月25日付)

〒335-0002

埼玉県蕨市塚越7-2-8

電話・FAX番号に変更はない

CONPT 日誌

1月10日(金) 第40回新聞製作人新年合同名刺交換会(於日本プレスセンター、240名参加)

2月12日(水) 企画委員会(出席6名)

13日(木) クラブ委員会(出席9名)

19日(水) ~21日(金) JANPS in page2025
(於東京・池袋サンシャインシティ)

26日(水) 第29回理事会並びに2月度評議委員会(出席9名)

27日(木) 広報委員会(出席7名)